



第9号
平成20年11月30日発行
発行者：特定非営利活動法人
金堂まちなみ保存会
理事長 西村 實
普及啓発委員会

保存会交流活動



会場とな た日野まちかど 感応館

九月二十七日に日野町で東近江地域づくり講座が開催され、西村理事長が「町並み保存と活用」と題して金堂まちなみ保存会の活動について二時間講演いたしました。参加者は日野町のまちなみ保存会の方を始め、東近江各地で保存活動を展開している方々でした。特に興味を持たれたテーマは、次世代の育成と修理修景で、日野町も旧家が取り壊される、空き家が増

加している等同じ悩みを持たれていました。

今回講演会場となった、日野まちかど「感応館」は日野商人の行商の主力商品となった「万病感応丸」の創始者正野法眼玄三の薬店で、喫茶コーナーもあり、観光案内の拠点として使用されてきました。私たちも交流館の活用への参考にしたいと思っています。

十一月十三日には丹波篠山から町並み保存会の方々五〇名が来訪され、交流会館で理事長より保存会活動について説明の後、金堂町の視察をされました。また十六日には隣の近江八幡市から保存会、行政の関係者が来訪され、保存会のNPO取得等について意見交換会を持ちました。

いづれの地区も地元活性化に向け熱心に活動されています。今後私たちの活動の参考になることも多々ありました。

(野村 勝彦)

金堂の歴史再発見

幕末の金堂

―皇女和宮下向と

高松隊騒動―

嘉永六年（一八五三）黒船が浦賀に来航して以来、国内は開国と攘夷、尊王と佐幕に大きく揺れましたが、金堂村もこの騒乱に巻き込まれていきました。

文久二年（一八六二）、皇室と将軍家の融合のため仁孝天皇の皇女和宮（かずのみや）と徳川家茂の婚儀がおこなわれました。その前年十月、中山道を江戸へ下向する和宮には、四一〇〇人を超える多くの

人びとが同行しています。街道筋の警護を命じられた大和郡山藩では、家臣だけでは不足のため領内から苗字帯刀を許された者を召集。金堂村からも人足一二七人と、外村宗兵衛・外村市郎兵衛など

が陣笠を被り羽織袴装束で槍持1人を従え、醒ヶ井宿から垂井宿までの警護に出向いています。また、同行の人びとの夜具を金堂村から二二〇枚の外村家から五〇枚提供しています。

慶應4年（一八六八）一月三日、幕府軍と薩摩・長洲軍の鳥羽伏見の戦いが起こり、戊辰戦争が始まりました。この頃、官軍（朝廷軍）を名乗る愛知郡松尾寺村の「赤報隊」などの偽官軍が横行し、豪商に金品を強要することが多くありました。

ありました。これは、金堂の商人たちが官軍勝利の時勢を敏感に感じたとも、長居されると困るため、厄介払いしたとも言われています。高松隊は、この後彦根藩から武器や兵の提供を受け甲府まで進軍しましたが、朝廷の許可を得ていない偽官軍であることが判明し、二月に処分されています。

(林 純)

編集後記

現在、金堂まちなみ保存会記念誌（あゆみ）の編集作業を行っております。記念誌は発行団体が箔付けのために作るものだから、その時の歴史を都合よく記述するもだという意見は昔からあります。しかし今回の記念誌は皆様の言葉にならない意思が書き残された貴重なものだと思います。お手元に届くまで、お楽しみにお待ち下さい。（福地 真一）

金堂まちなみ保存交流館 開館を迎えて



永年の念願だった金堂まちなみ保存会の拠点が「金堂まちなみ保存交流館」としてこの十一月二十九日に、東近江市・東近江教育委員会主催・NPO金堂まちなみ保存会共催で開館の式典が多くの関係

者ご参会のもと盛大に挙行されました。

平成十六年より合併を経て、足かけ五年、思い起こせば当保存会結成時からあった「商人屋敷を拠点に」との信念が旧五個荘町から東近江市に引き継がれ、行政の暖かいご支援のもと、ここに実現できましたこと無上の喜びを禁じ得ません。

庭の整備等の課題は残されていますが、ひとまず強固な地盤のスタート台に立つことが出来ました。今後は、金堂まちなみ保存交流館活用運営委員会



で、昼夜を分かたず献身的に検討いただいた諸施策を実施していくのが私達に課せられた責務であると思えます。

ここから金堂町の未来像を描き、新しいまちづくりの取り組みが出来るものと確信をしております。今後更なる会員の皆様のご助言、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

内容は出来上がってからの楽しみですが、会員の皆様にも「住民の声」として貴重な投稿を頂戴いたしましたこと、感謝申し上げます。本年は特に二つの大きな意義のある事業が重なり、ひととお感懐深いものがあります。この慶びを会員の皆様と共に共有し、来年度の更なる飛躍に繋げたいと念じています。

(理事長 西村 實)

